

Un jour

アンジュール

「アンジュール」は仏語で「ある日」の意味です



自分の仕事と生活を見つめ直して「新しい男性の生き方」を考えてみようー参加条件は、50歳以上の男性であること。今年度で3回目となる青森市男女共同参画プラザ主催講座「男の生き方塾」。公募に応じた企画委員が案を練り、年に4回ほど開催してきました(写真=平成21年11月14日「おしゃれ〜脱“背広”ファッションショー〜」より。青春の1曲をBGMに、自慢のスタイルを披露)。

特集

ワーク・ライフ・バランスで
ハッピーに生きよう!

仕事、仕事で、趣味の時間も友達や家族との時間も取れない、そんな方はいませんか？ 仕事を続けたかったけれど、子育てで退職し、悶々としている方はいませんか？ 介護のために、仕事を辞めざるを得なかった方はいませんか？ 仕事も仕事以外のこともバランスよくできたらと、思ったことはないでしょうか。仕事と生活の調和がとれた人生を送ろうではないかという動きが広まっています。ワーク・ライフ・バランスです。

不況や少子化などにより、「男は仕事、女は家庭」が成立しなくなってきています。この変化に対応するために必要なのが、ワーク・ライフ・バランスの実現です。そして、これは男女共同参画を進めるためにも欠かせません。今号の特集です。

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え
人と協調し 人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を
宣言します。

平成8年10月22日 青森市

2010.2.20 No.36

・3月3日はひな祭り。3月8日は何の日？ それは「国際女性の日」。この日を国の祝祭日に行っている国があるんです。それはカンボジア。12月10日の「国際人権の日」も前王妃の誕生日も祝日。女性と人権尊重を国内外にアピールしているカンボジア、新しい発見です。(50代・アンコールワットに行きたいアラカン女)

・続3月8日。イタリアでは女性にミモザの花を贈るのがです。街中がミモザでいっぱいになるなんて！ 行ってみたいなあ。(30代・乙女チック続行中)

アンジュール的 私の言の葉

・やっぱ君が良い♡あなたがいるから頑張れる♡そんな一人を応援したい！ これからはワーク・ライフ・バランスや男女共同参画が基本だね。(60代・自称幸せ配達人のおしさん)

・知ってしまったことが幸せなのか？ 迷うことがある！ だけど、知ってしまった者が動き出すことから始まるんだ。と信じて、今夜も徹夜の私たち！ (50代・男女共同参画社会の実現を願う母)

・デート中らしき二人。つい耳がダンボ、目がお皿になったのは、女性が支払ったカップルが4組続いたこと。時代は変わったのか、偶然か。(50代・ボクらは割り勘だった)

ワークライフバランスで「生きる！」

ワーク「働」を変えてみよう!



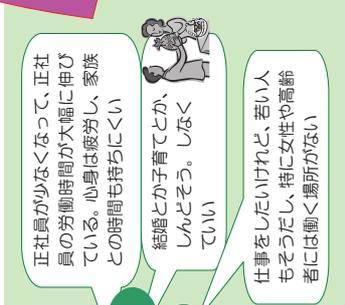
カエル! ジャパン
Changel JPN

ワーク(work)は仕事、働き。
ライフ(life)は生命、一生、人生、生活。
バランス(balance)は均衡、平癒。
国では、「ひとつ働き方を変えてみよう!」をキャッチフレーズに
ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の普及・実現を目標した
「カエル! ジャパン」キャンペーンを展開しています。
このワークライフバランス、いったいどんな考え方なのでしょうか。

ワークライフバランス



目指すのは



働き方を変える

アルバイトやパート、派遣
といった非正規社員が増
加。その大量解雇。一方で
正社員は長時間労働で健康
被害も。心身の疲労から健康
被害も。また、女性の社会進
出が進み、共働き世帯が過半数
をかかめらるようになってい
て支障などの社会基盤は従
来と変わらないため、出産
の継続を断念。職場や家庭、
地域の固定型役割分担意識
が残っています。この様な状況
で、結婚や子育てに関する私
達の希望は思うように実現
できず、これが、少子化の
原因になっているとも考え
られます。

そこで、一人ひとりが自
分の生き方に合わせて、人
生の各段階に応じて働き方
を選び、自分にちようとい
いバランスで仕事と私生活
を送れたら! そう考える
バランスです。

ワーク・ライフ・バラン
スの実現のためには、働き
方や生き方に関するこれま
ででの考え方の見直しが必要
になります。これは、企業
にとつても意味があること
です。社員の気力充実、上
向き、向上の生産性を高め
、企業の競争力を強化し
ます。働き方を見直すこと
が、「明日への投資」なので

ワークライフバランス

そして、この、一人ひと
りが望む生き方ができる社
会は、男女共同参画が目指
す社会の姿でもあります。

そして、この、一人ひと
りが望む生き方ができる社
会は、男女共同参画が目指
す社会の姿でもあります。

ワークライフバランス

仕事とオンとオフをしつ
かり分けるとか、なんでも
半々になるようにやろうと
いうことではありませぬ。
人生の各段階に応じて、自
分にちようどどのバランス
を選択すればよいのか。自
分の人生の中で自分がハ
ッピーに生きるにはどのよ
うなワーク・ライフ・バラ
ンスがよいのか。一人ひと
りが考えて、人生をともに
する人たちと話し合っ
てみ

5. うんちく その1 変わらつつある固定の性別役割分担意識
高度経済成長期の日本、「24時間働けますか」というCMが一世を風靡し
ました。企業戦士の男性と家事・育児を一手に引き受ける専業主婦。今でも
「この家庭の在り方が最善だ」という意見はありますが、内閣府の「男女共同
参画社会に関する世論調査」(平成21年10月調査)では、「夫は外で働き、
妻は家庭を守るべきである」(これを固定的性別役割分担意識といいます)
に反対(55.1%)が賛成(41.3%)を上回っています。また、初めに男性の回
答も反対(51.5%)が賛成(45.8%)を上回りました。

5. うんちく その2 ワークライフバランスが言われ始めたのは
1990年代に欧米で使われ始めた
言葉です。仕事と生活を両立
できれば従業員の能力を引き出せる
から、従業員にも企業にもいいという
考えが基にあります。

5. うんちく その3 「時間=産出量」から抜
け出せない?
ITが発達して産業構造が変わったのに、
私たちがその変化についていけない
のかも知れません。頭脳労働では「労働時
間=良質な仕事の産出量」ではないのです
が、未だに「時間=産出量」の働き方や評
価のしかたが残っているようです。

5. うんちく その4
この考えに関連した法
律はある?
次世代育成支援対
策推進法、育児介護休
業法の改正もこの考え
方を表しています。

5. うんちく その5 取組事例はあるの?
「地方公共団体における取組事例」「企業の取組事例」
などが、仕事と生活の調和推進ホームページで紹介され
ています(<http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>)。
県でも「青森県いきいき男女共同参画社会づくり表彰」
を設けています。男女がともに働きたい仕事と生活の
調和のとれた社会の実現に向けた活動に積極的に取り
組んでいる企業が表彰の対象です。

特別寄稿



父親であることも楽しもう!

元祖イケメン 子ザリギギバ代表理事 安藤 拓也 さん

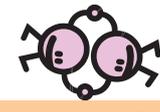
育児をする男性は最近増
えているようですが、まだ
少ないという人義
が多いという人
が、次世代を担う子
を育てること―それ
はどんな仕事にも勝
るほどの大きな
プロジェクトだと、私
は子育てを通じて更
に実感しました。せ
つかく父親になれた
のだから、育児を
楽しんで手はない。
母親に独占させてお
く手はない。現代の
社会的・経済的
環境や、男は働
き、稼いで家族を養
うのが仕事」とい
う古い規範意識が
それを許しません。国
の調査でも「家庭生
活を大事にした
いい」と思
いながら、仕事を
優先する結果が
出ている。家族

と楽しい時間を過したり、
地域で活動する時間が、日本
の働く父親たちにはあまりに
も少な過ぎるのです。あまりに
少なければ、父親が積極的に
育児に参加すれば、明るい変
化が必ず起こります。子ども
との感着が深まったり、夫婦
の絆が強まったり、生活力が
磨かれますから、自分自身の
心も安くなります。さらには
家庭という枠を越えて子ども
の成長を促したり、一生付き
合える隣人ネットワークも持
てます。それによって父親自
身の世界も広がり人間の幅が
出て、それが本業の仕事や
今後の人生にも活かされてい
るのではないのでしょうか。そ

う考えれば、育児に関心な
いということに本
当に残念な
ことです。

「昨日、新聞紙上を賑わす
ワーク・ライフ・バランスとい
う言葉も、夫の人は提案を
を聞き流しています。『仕事か、
生活か』のどちらかを
者択一ではなく、両方楽しむ
ようなハッピーバランスを
目指すべきです。生活してい
ますが、仕事はもちろ
ん、仕事一辺倒の生き方では
自分も周囲(家族)も幸
せになりません。この
から先は職場と家庭のバ
ランスのとおり方を見直し、男
性だつて子どもを
楽しむことができるのだと
考えませんか?」

あなうらとちや
1962生まれ。3児の父。父親支
援のNPO法人「子ザリギギバ」代
表理事。
「Fathering」父親であること
を楽しむという考えを持つ若い世
代の父親を応援することを通じて、働
き方の見直しや企業・役所の意識改
革については、少子化対策などを目標
にさまざまな事業を展開している。
東京都の次世代育成推進委員会
委員。公立小学校のPTA会
員も務めた。著書に『パパの極意』仕事も育
児も楽しむ生き方』(NHK出版)





～「パパ・ママ育休プラス」とは～
これも1つのワーク・ライフ・バランス
です！

子どもが原則1歳になるまでしか取れなかった育児休業が、父母がともに取得する場合には、1歳2ヶ月になるまで取得できるようになりました。

これは、父母が同時に育児休業を取る場合のみならず、父母が交代で育児休業を取る場合も含まれます。つまり、父親の育児参加により、従来より育児休業期間を2ヵ月延長可能とすることで、取得率の低い男性の育児休業取得を促そうとするものです。

このように、夫婦で育児休業を取る場合の休業期間の延長をパパ・ママ育休プラスと厚生労働省が名付けました。

なお、父母1人ずつが取得できる休業期間(母親の産後休業期間を含む)の上限は現行どおり1年間が原則です。

さらに、育児休業は「連続した」1回の取得が原則ですが、父親が産後8週間以内に育児休業(パパ休暇)を取得した場合には、再度育児休業を取得できるようになりました(再度の休業期間もあわせて1年を超えない範囲で)。



●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力で悩んでいる、自分自身の生き方や家庭のことで相談したいなど、あなたが抱えている悩みを相談員がお聞きします。

毎週月・木(祝日・年末年始・休館日を除く)

○電話相談 ☎017-776-8850

○面接相談 10:00～12:00
13:00～16:00

*面接相談は予約が必要です。

平日9:00～18:00 ☎017-776-8858

<発行>

青森市市民文化市民協働推進課
男女共同参画室

〒030-8555 青森市中央1-22-5
☎017(734)2296 FAX017(734)5232

<編集スタッフ>

企画集団プティジュール:白井壽美枝
小山内世喜子・沼田久美・阿部美智子

転載希望の方はご連絡ください。

アンケート



男女共同参画って どう思う?

アンジュールが
聞いてみました!

(男性14人、女性106人、
性別回答なし2人)

昨年で男女共同参画社会基本法制定から10年、女性差別撤廃条約採択から30年。青森市でも、男女共同参画都市宣言をしてから14年になろうとしています。これまでの年月を経て、人々の意識はどう変わったのでしょうか。普段から特別な関心を持って男女共同参画推進に取り組んでいるというわけではない市民活動サークルの人たちなどをターゲットに聞いてみました。

Q「男女共同参画」ということばを知っていますか?

→「知っている」が9割



Q「男女共同参画」をどう思いますか?

→「いいと思う」が6割、「わからない・回答なし」が3割

Q「男女共同参画」をすすめるためには何が必要と思いますか?

→「上手な伝え方」「PR」「企業・行政の積極的な取り組み」
「地道な啓発の継続」「意識改革」など

「いいと思う」人は、「その人が活かせる」「決めつけのない考え方」などを理由に挙げていました。「元気になる」と書いた人もいました。でも、「わからない・回答なし」が3割でした。

「すすめるために何が必要か」の回答には、「わかりやすく伝えること」や「意義や意味についての明確な説明」、「マスコミなどが取り上げる」などが多くありました。

男女共同参画は「少子高齢化や経済状況などからこれからの働き方を考えたとき、絶対に必要」「生き方を見直すキーポイントになる」という回答が多くありました。これらの意見は、今号の特集「ワーク・ライフ・バランス」にもつながるのではないのでしょうか。

一方、「自分の『男だから女だから』からなかなか抜け出せない」という記述もありました。これまでの年月を経て、一定の認知を得ることができた男女共同参画。まだまだ、その考え方を広めていく必要がありそうです。

(アンケート実施団体:企画集団プティジュール)



■長崎で出逢った青森宣言の
法事で訪れた長崎。35年ぶりに
らいに永井隆博士の如己(よこ
堂)に出かけました。診療と研究に
よる放射線障害と原爆による障害
のために、幼子を残して43歳で亡
くなった博士。病魔と闘いながら
被爆者の救護活動を続けました。
最期のときを過ごした畳二畳の小
さな住まい(隣人たちからの贈り
物)が如己堂です。
「こよなく晴れた青空を」で始
まる歌「長崎の鐘」をご存知の方、
いらつしやいますよね。
堂の名は、「如己愛人」己の如く
人を愛せよ、からの命名と。「青森
の宣言文に通じるよね」。隣にいた
夫がつぶやきました。とっても、
ドキツとしました。

アンジュールの
SHIRAIさん